

2015年速修テキスト 4 運営管理

当書籍において誤りがありました。読者の皆様にご迷惑をお掛けいたしましたこと深くお詫びいたします。

第3部 第8章 商品補充・物流 III 物流センター管理 平成21年度第29問(p.375)において選択肢ウの文章の一部が記載されておりました。

つきましては、別紙のとおり問題文と解答・解説をご用意いたしましたので、ご利用いただきますようお願いいたします。

問 題 平成 2 1 年度 第 2 9 問

3PL（Third Party Logistics）に関する記述として、最も不適切なものはどれか。

ア 3PL 事業者には、自社で輸送手段や保管施設を保有している者と保有していない者がある。

イ 3PL を活用する場合も、物流拠点ネットワークの設計などは荷主側で行う必要がある。

ウ 荷主にとって 3PL を活用する利点は、コスト削減のみならず高度な物流サービスの提供を受けることが可能となることにある。

エ ロジスティクス・コスト削減の成果を荷主と 3PL 事業者で分け合う包括契約を締結する場合がある。

解答・解説 平成21年度 第29問 解答：イ

3PL (Third Party Logistics) に関する出題である。3PL は「第3者物流」と訳される。『平成20年度国土交通白書』には、3PL 事業とは、「荷主から物流を一貫して請け負う高品質のサービス」と説明されている。従来の物流は、供給される側か、供給する側が行うものであったが、消費者ニーズが高度化し、顧客から要求される物流ニーズも多様化・高度化して来たため、専門性の高い、ノウハウを持った企業（第3者）に業務委託することが有効と考えられるようになってきた。3PL では、物流システムそのものの設計、構築、運営によって大幅なコスト削減を図り、高品質なサービスを提供する。

ア：適切である。3PL 事業者は、高品質のサービスを提供することが目的のため、自社で輸送手段や保管施設を保有する場合もあれば、アウトソーシングにより、高品質なサービスを提供する場合もある。

イ：不適切である。3PL は、あくまでも荷主から物流を一貫して請け負って高品質のサービスを提供するのが目的のため、通常、物流拠点ネットワークの設計などは、高い専門性を持つ 3PL 側が行う。したがって、選択肢の「荷主側で行う必要がある」は、不適切である。

ウ：適切である。荷主にとっては 3PL を利用することで、コスト削減はもちろん、高度な物流サービスの提供を受けることができる。

エ：適切である。3PL は物流システムそのものの設計、構築、運営によって大幅なコスト削減を図ることができる。ロジスティックス・コスト削減の成果は、荷主側と請け負う側の 3PL 事業者の間で分かち合うための包括契約を結ぶ場合もある。

◎参考文献

国土交通省編『平成20年度国土交通白書』ぎょうせい

木下安司著『図解よくわかるこれからの流通』同文館出版

以上